

匹見地域協議会（第5回）会議次第

日時 令和2年3月29日（日）13:00～

場所 匹見タウンホール 集会ホール

出席者

（委員）藤谷 一剣・齋藤 惟人・大谷 文男・西川 友史・大久保純子
溝田 洋子・村上 巴・河本 亮・齋藤 光・齋藤 幸士

（益田市）山本市長、島田匹見総合支所長、藤井地域振興課長・

田中地域振興課参事、齋藤分室長・藤本分室長・佐々木分室長、事務局

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 協議事項

（1）地域協議会まとめ（要望事項）について

4. 市長挨拶

5. 要望書提出

6. 市長との意見交換

7. 報告事項

（1）まちづくりコーディネーター事業報告

（2）匹見峡温泉の指定管理者について

（3）匹見地域活性化基金の状況について

4. その他

主催者名	匹見総合支所地域振興課
会議名	令和元年度 第5回 匹見地域協議会
開催日時	令和2年3月29日(日) 13時00分～
開催場所	益田市匹見タウンホール 集会ホール
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 匹見地域協議会委員(10名) ・ 山本市長 ・ 匹見総合支所：島田支所長 地域振興課：藤井課長、田中参事、斎藤分室長、藤本分室長、 佐々木分室長、坂本主幹、宮野

【会長あいさつ】

いよいよ本日が最後の地域協議会となる。地域協議会のまとめとして要望書を提出する。合併後15年が経って、人口も減り高齢化が進み地域の元気が無くなってきている。この地域協議会が無くなった後市がどのように地域に対して取り組みを行うかと言うことが大きな問題だろうと思う。そういったことを念頭に置き今日の会議を進めていきたい。

【協議事項】

(1) 地域協議会まとめ(要望事項)について

○地域協議会の要望について順番に内容の確認を行いたい。

〈国・県道の整備促進について〉

- 国道488号線の整備についてレストパークまでの区間とするのか、全面改修として益田・廿日市線の改修ということにするか、文章を考える必要があると思う。
 - ▷ 匹見地域道路整備促進期成同盟会のほうで毎年国、県に要望を出しており、国・県からは全面改修は不可能に近いとの回答を得ている。また、三坂八郎線に振り替えるということについても県を通じて広島県側に投げかけたところ困難であるとの回答があった。期成同盟会としては全面改修を要望しているが、現実的なところとして特に裏匹見峡までの改修を集中的に行うよう要望されている。
- すぐに出来る出来ないは別として全面改修について要望すべきと思う。
- 国道488号線でも三坂八郎線でも良いが通行止めの改修をして欲しいというものだが、国・

県の回答を見ても難しい。市としてはどう考えるか。

▷ 市としては国道488号線の全面改修という方向でお願いしているところであるが、国・県の回答からかなり厳しいと感じている。

- 大きく分ければグリーンライン90の早期完成、裏匹見峡までの区間の整備、通行止めの解除という3点になるかと思う。これらのことを踏まえて事務局で文章を作成して欲しい。

〈匹見峡温泉やすらぎの湯について〉

- これは、この後も報告があると思うがこのままで良いと思う。

〈特産加工施設整備事業について〉

・生産振興の取組状況について

○主な取組として、栽培用苗の確保に向けた県事業への参画と現地実証栽培の取組、新規生産者や生産休眠者の掘り起こしによる作付け面積の拡大および生産量の増産化、わさびメリクロン苗を活用した栽培方法確立に向けた取り組みを行っている。

○現在、なかなかメリクロン苗の普及・拡大がうまく伝わっていないが、わさび苗の普及にさらなる一歩が必要ということで動いている。

- 品種改良をする上でバイオ事業は大変重要であるため今後も継続していただきたい。

- 特産加工施設については次の6点について施設改修として考えていただきたい。①地下水のくみ上げが悪い部分、②老朽化に施設屋根等のひび割れ、③地下水消毒装置の漏水、④貯め枘の空洞化、⑤冷蔵庫床の沈下、⑥進入路のコンクリート仕切り

- 市のこれまでの対応状況は

▷ 直近だと冷蔵庫の扉を修繕した。地盤沈下など根本的な問題があるものについては中々手が出せていない。

- 補助事業等の活用は検討したのか。

▷ 県の事業については加工場の改修という事業がなかなか無い。国の事業については出荷量や生産量のハードルが高く、使えるか使えないかということがある。

- これまで何度も意見を出してきたが、こういった現状がある。意欲を持って取り組んでいただきたい。

- この項目については加工施設だけでなくバイオ施設も含めた要望という文章としたい。

〈福祉施設について〉

- 雇用の場であることや、施設の安定的経営の面から30床から50床に増床することについてということで文章はこのとおりで良いと思う。

- 特に安定運営のためには30床から50床にすることは必要なので文章に盛り込んでいただきたい。

【市長あいさつ】

○平成16年の合併以降、地域協議会の皆様におかれては様々な意見、答申を頂き感謝申し上げます。

げる。

○今日の意見交換では市政方針について色々ご意見を賜りたい。

○年明けに臨時で匹見峡温泉を開業した際は、商工会をはじめ地域の住民の多大なるご協力をいただいた。

○合併以降、十分に進められなかったわさび振興や林業振興、グリーンライン90の整備について今後一層の努力や県への力強い要望を継続して参りたい。

【意見交換】

(1) 市政方針の説明

○はじめに、市長就任後の人口拡大計画や総合戦略、人づくり総合構想について記載している、また、平成29年度からは連携を強く意識している。

○令和2年度の重点要素として3つの要素を上げている。

○1つ目、SDGsに関連する連携としている。SDGsとは国際社会で2030年までに達成を目指す目標であり、これに関連する項目、または、考え方を軸に連携を進めて行く。

○2つ目は島根県との連携としている。島根創生、人口減少に勝つ島根という方針や子育て支援や美肌県島根の情報発信にも努力されるといった流れを積極的に受け島根県との連携を一層重視すべきであると考えている。

○3つ目は民との連携としている。民とは商工会議所や、商工会、JAなどの地元経営団体や、住民で構成される団体、あるいは外部の関係機関であり、この民との連携により山陰道の整備促進、萩・石見空港の利用促進、匹見峡温泉やわさびの振興について進めて行きたい。

○地域協議会は本年度を持って廃止となるが、引き続き住民の意見を伺いながら益田市全体として分け隔てのない振興を図っていききたい。

(2) 意見交換

●地域協議会がなくなった後も地域の声を聞いていきたいということだが、地域に何回出向くとか具体的な考えがあればお聞きしたい。

▷ 具体的に回数や形式は決まっていない。早急に内部で検討して決めていきたい。

●東京2便化への感触はどうか。

▷ 今年は初め年間目標を達成するという期待を持っていたがコロナの影響で達成は不可能となった。しかし、搭乗者数が年々着実に伸びてきていることに加え、羽田発着枠コンテストが3枠から5枠に広がったこともあり、期待をしている。この5枠に入れば3年間の延長になり、これまで以上に腰を据えた利用促進に取り組めると考えている。

●企業誘致の状況についてはどうか。

▷ 令和元年度は1社、平成30年度は2社の島根県による企業立地認定があった。この3社のうち2社がファクトリーパークへの立地であった。他市の例を見ても山陰道の整備が進めばファクトリーパークへの企業誘致に追い風となる。今後ともファクトリーパークをはじめ益田市への企業誘致についてしっかり続けていきたい。

●先日、確定申告に行かれた方が帰る途中で雪のために道から滑落して亡くなるという痛ま

しい事故があった。選挙や確定申告など市のほうから出向くなど地域に寄り添った施策をお願いしたい。

▷ 亡くなられた方には改めてお悔やみを申し上げる。住民の義務を果たすために亡くなられたということは非常に痛ましいこと。役所の方から出向いて用事を済ませていただくような配慮はまだまだ行う余地がある。今後具体的に個々の対応を考えていきたい。

●コロナの影響で益田市の学校は一斉休校になったが、子供たちの心のケアや学習の遅れなど対策をお願いしたい。

▷ 益田市では校長会や教育委員会、感染症対策会議で議論した結果、児童生徒の安全を第一に考え3月の下旬から休校とした。また、コロナウイルスが大規模に広がっていくことに対して、一つの町が率先して防止対策に加わることが必要ではないかという判断から、学習や育児の懸念があることも承知であったが休校することとした。

●中小企業も色々な打撃を受けているということで益田市らしい対策というのをお願いしたい。

▷ 経済対策としては今2点検討している。1点目は県の融資制度により緊急の融資を受けられた方が負担する信用保証料を市がカバーできないかということ。2点目は特に飲食店への影響が大きいことから、商工会議所や商工会と連携し無料の誘客のチラシ作成を行うことを検討している。これについては、専決処分という形で行って、一日でも早く実施したいと考えている。

●施政方針を見て横文字が多いと感じた。もっと市民に分かりやすい表現にしてほしい。

▷ なるべく外国の言葉は避けるようにと思っているが、専門用語や日本語の訳語が成立しないものについてはどうしても横文字になっている。これについても分かり易い言葉遣いを心掛けたい。

●まち・ひと・仕事創生とある中の、ひとということに関して、今引きこもりの方はどれ位いて、その方たちに対する支援や対策は行われているのか。

▷ 学校に通われている間は学校や教育委員会が連携をして対策をとっている。学校を卒業された方は子供・若者支援センターという機関で若い方やその親の相談に応じている。深刻化しているのが40歳を超えた方の引きこもりの問題で直接把握することが難しいため、民生委員の方に察知をしていただき、原因に応じて関係する支援に繋げていくというふうに進めている。

●これからは小さな声でも、支所長を仲介することとなると思うが地域の声を繋げていただきたい。

▷ 支所と本庁が互いに歩み寄り、互いに連携を密にすることが重要であると考えている。匹見地域の課題も本庁の担当の部や課がしっかり把握し、対策ができるよう努力していきたい。

●合併時の一番要望が強かったグリーンライン90については進んできてはいるものの、完成には至っていない。特に重点的に県に要望するようお願いしたい。

▷ 毎年県に要望する中で、重点項目と一般項目というものがある。このグリーンライン90については毎年重点項目に掲げて強く要望している。県も財政状況が厳しい中で十分に進展していないところもあるが、引き続き重点項目として要望していきたい。

- 合併以降人口は減り高齢化も進んできており集落が無くなるのではないかと思う。人口拡大計画の検証はされたのか。
 - ▷人口拡大計画は人口減少を深刻な問題として捉え対策を打ち出した先駆的な取組であったと自負している。計画についてはK P I（重点業績指標）を設定しており総括は令和2年度行うこととなっている。限界集落に対しては、なるべく住み慣れた地域で住み続けられるよう出来る限りの支援に努めたい。
- 匹見地域で行う工事をもっと地元の業者が取ることはいかないか。
 - ▷なるべく地元の業者に取っていただくのが望ましいのでいい方策が無い相談したい。
- 各部署で定期的に政策意見を吸い上げる機会というのがあるか。
 - ▷部署によってやり方はそれぞれであるが、例えば福祉環境部では月1回の定期的な会議を行い、予算要求などに繋げるようにしている。
- 道川地区で風力発電の計画が上がっている。環境にも影響があるのではないかと思うが、市としても意見を聞かれることになると思うので検討をお願いしたい。
 - ▷風力発電については国が許可権限を持っている。国は県に、県は市に意見を求めることになる。市としては、環境への悪影響が無いという十分な裏付けをとっていただくこと、住民に理解を得るよう最大限努力を行うことが必要であるという意見を述べたい。
- 令和2年度から特定地域づくり協同組合制度が施行される。市としては後押しをするか。
 - ▷この制度については市も支援を行う。この制度は匹見町のように人口急減・高齢化の地域のために作られた制度であるので積極的に後押しをしていきたい。

【要望書提出】

- 内容を4点にまとめた要望書を益田市長に提出

【報告事項】

(1) まちづくりコーディネーター事業報告

①情報発信について

ブログやホームページの活用、報道機関へ取材依頼を通して情報発信を行った。新聞やテレビへ情報提供による報道は費用負担も無くピーアール効果も高いことから今後も活用していく。

②定住対策

年2回定住情報誌おかえりを発行し、地域内外へ定住施策や田舎体験事業、ボランティア制度、農家民泊、U I ターン者の匹見での生活等の情報発信を行っている。引き続きU I ターンのきっかけ作りに取り組みたい。

③集落対策

公民館や地域から支援要請を受け各種イベントや事業が円滑に進むようサポートを行った。

④加工グループ

食品表示法の完全施行により、食品表示と栄養成分表示義務付けになったことに伴い要請のあった加工グループの表示作成をサポートした。また、サンエイト美都で木製わさびお

ろし器の試験販売を行った。

⑤観光対策

ひきみ田舎体験推進協議会による田舎体験事業を実施し交流人口拡大に努めた。令和元年度の交流人口数は175名であった。美都や益田と連携し、広域的な観光客受け入れができたことや、インバウンド対策で関係部署や旅行会社とも連携を密にとることが出来ている。今後もこういった連携を行い観光実績に繋げていきたい。

⑥ボランティア活動支援

匹見ボランティア制度は、町外在住者363名がボランティア登録している。令和元年度は地元9団体から要請があり1件はコロナの関係で中止になっている。地元の受入れ団体からは作業負担の軽減や交流の場となるとの声を頂いている。令和元年度は42名の方にボランティア参加していただき募集定員に対して104%の充足率となった。

(2) 匹見峡温泉の指定管理者について

- 指定管理期間は令和2年4月1日から令和7年3月31日とし、温泉部分のみの指定管理ということで公募を行った。
- 1件の応募があり、審査を行なったところ最低基準を上回る得点であったため三光ビル管理株式会社を候補者として決定し、3月議会において承認を得た。
- 4月下旬から温泉を動かす予定としている。

●レストパークはどういう対応をされるのか。

▷ 4月に公募をかける準備をしている。スムーズにいけば7月からの運営になるのではないかと思う。

●既に予約が入っていると聞いたが、7月までの対応はどうするのか。

▷ 運営方法については協議中であるが、当面は直営で対応する。人員を集めるなり、業務委託なりして連休までには何とかしたいと考えている。

●予算はあるのか。

▷ レストパークの指定管理料について予算を組んであるので、そちらを使うしかない。

(3) 匹見地域活性化基金の状況について

- 基金について、平成30年度末残高が13,017,000円であり令和元年度分について2,937,000円の取り崩しが見込まれており、令和元年度末で10,080,000円の残額となる。
- 令和2年度当初予算として2,720,000円としており令和2年度末で7,360,000円の基金残高となる見込みである。
- 同じペースで行くと令和4年度までは基金が残るような状況だが、ほとんどが補助金であり、本当に必要な補助金について残していく格好になろうかと思う。

●基金が無くなった後は産業祭など出来るのか。

▷ 将来的に予算が減額されれば、催し物もそれぞれ見直しをかけていく必要があると思う。

●益田にも美都にも無いものだから合併15年で使い切ってしまうものだった。この

一年で色々なところと話をして一番良い使い方をして欲しい。

▷ 全体での協議は進んでないが、使い方については検討していく。

- 地域協議会が無くなった後は、基金について住民が目にするものはなくなる。匹見には議員が2人おられるので、今後はそちらに相談、報告をして欲しい。

【まとめ】

これまでこの地域協議会に参加し貴重な意見を頂きましたことについてお礼申し上げます。今日提出した4点の要望について、この要望が早急に実現して少しでも住みやすい街になるよう我々も努力をし、行政もお手伝いを頂き官民一緒になって地域を守っていきたい。本当に長い間ありがとうございました。